

# にし しんどう 西新堂町 ちょう

## 墨書銘聖徳太子二歳像

中世から檀原市域に二つあった「新堂」のうち、磯城郡に属した一つが明治一七年に地名を「西新堂村」と改称しました。

この「西新堂村」が磯城郡田原本町の「大字西新堂」となっていた昭和三二年、同じ田原本町大字だった新口・飯高・大垣・豊田とともに檀原市へ編入され、同年七月に現在の「檀原市西新堂町」が発足しました。

当地が「新堂」として古文書に初登場するのは、貞和三（一三四七）年の「春日大社文書」です。時代が下った応永六（一三九九）年や長禄二（一四五八）年の文書にも南都・興福寺関係の領地としてたびたび登場していますので、遅くとも南北朝時代に「新堂」という地名が定着していたと考えられます。

寺川と米川の合流点西に位置する当地は、江戸時代から「新堂村」と呼ばれる農村でした。明治一五年ごろの戸数が三六戸あり、米・麦・大豆・小豆などが主産物（町村誌集）でした。

町の北端に位置する真宗興正派の普賢寺には、古く寛正五（一四六四）年墨書銘のある「聖徳太子二歳像」が安置されています。また同町西北の一角に昭和五七年、市立檀原中学校が開校しています。